

B 157 苧麻による手工芸利用について(第4報)
東北女子短大 上田百合子

目的 前報では野生の苧麻植物から、家庭でも容易に繊維を採取し、精練・漂白することにより、純白な絹糸状の繊維を採取することが出来た。またこれ等は摩擦、水に対しても強力であることが確認出来た。本報に於いては白く純白な絹糸状の美しい白さは、汚染されることによりどの程度除去されるのか、その洗浄効果を界面活性剤と次亜塩素酸ナトリウムとの複合効果について検討を行った。

方法 試料は前報と同法の工程により採取した。人工汚染浴に試料糸を入れ、所定の時間浸漬させ、それを電気洗たく機による洗浄試験の結果を肉眼的に判定する。

洗たく条件は粉末界面活性剤(直鎖アルキルベンゼン系)水 30 l に対して、25 g 次亜塩素酸ナトリウム 2 l の水に 20 ml の使用量で水道水(PH 値 8.1 ± 0.1) と洗たく温度 35 ~ 40 °C、20 min、洗たく回数 / 回、5回、10回とした。

結果 界面活性剤の効果は水道水、温湯とも濃度依存性がみられるが温度の影響は小さい。洗浄性におよぼす繊維基質の影響は界面活性剤と次亜塩素酸ナトリウムの複合効果は苧麻糸において高い洗浄率が得られ、再汚染率の低下が認められる。